



再生資源サプライチェーンの強靱化に関する検討会

2026年8月26日

ケミカルリサイクル・ジャパン株式会社

出光興産の5つの事業セグメント

当社は、燃料油、基礎化学品、電力・再生可能エネルギー、高機能材、資源の各分野において、様々なパートナー・顧客との信頼関係をベースに、多様なエネルギーと素材の開発・製造・販売を手掛けています



基礎化学品部の国内外拠点・事業規模

国内外で **オレフィン製品 200万t アロマ製品 400万t** を販売

国内 7拠点



【国内】主要化学品生産能力※1

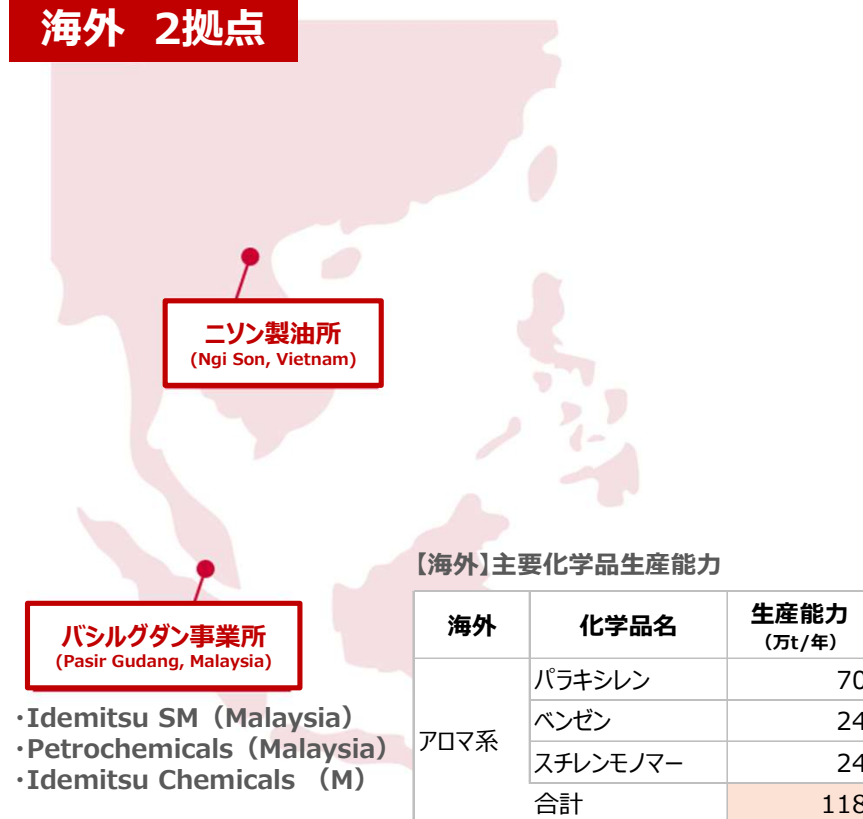
国内	化学品名	生産能力 (万t/年)
オレフィン系	エチレン	100
	プロピレン	96
	合計	196
アロマ系	パラキシレン	84
	ミックスキシレン	83
	ベンゼン	109
	スチレンモノマー	55
	シクロヘキサン	24
	合計	354

※1 グループ製油所における生産品も含む

【国内】関係会社

会社名	化学品名	生産能力 (万t/年)
プライムポリマー	ポリエチレン	55
	ポリプロピレン	126
PSジャパン	ポリスチレン	32
ケミカルリサイクル・ジャパン	使用済みプラスチック処理能力	2万トン/年

海外 2拠点



【海外】主要化学品生産能力

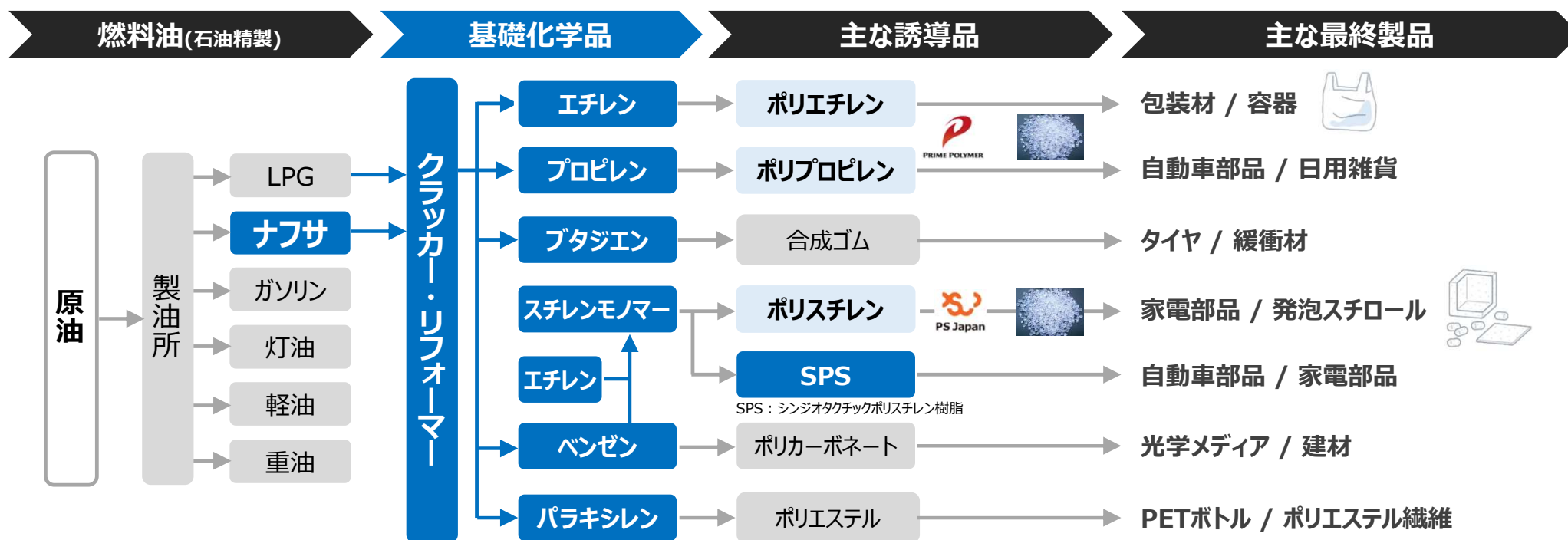
海外	化学品名	生産能力 (万t/年)
アロマ系	パラキシレン	70
	ベンゼン	24
	スチレンモノマー	24
	合計	118

基礎化学品事業の位置づけ

原油精製の過程で得られるナフサから、プラスチックや化学繊維などの原料となる基礎化学品を製造・販売

原料であるナフサ～誘導品まで、長いバリューチェーンを自社で持つことを強みとする

カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーの実現に向けた社会的要請にも迅速に対応が可能

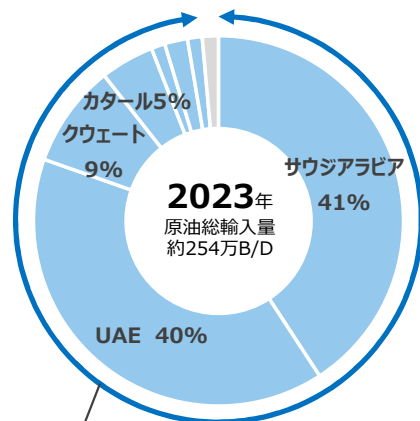


出光興産がケミカルリサイクルに取り組む理由

当社は長年にわたって化石燃料を取り扱い、プラスチック製造に深く関わってきた。そのような当社だからこそ、**使用済みプラスチックのリサイクルにも責任を持って取り組んでいく。**

【原油輸入先】

プラスチックの原料となる原油は、海外輸入に大きく依存。中東依存度が95%と特定地域への依存度が高い。



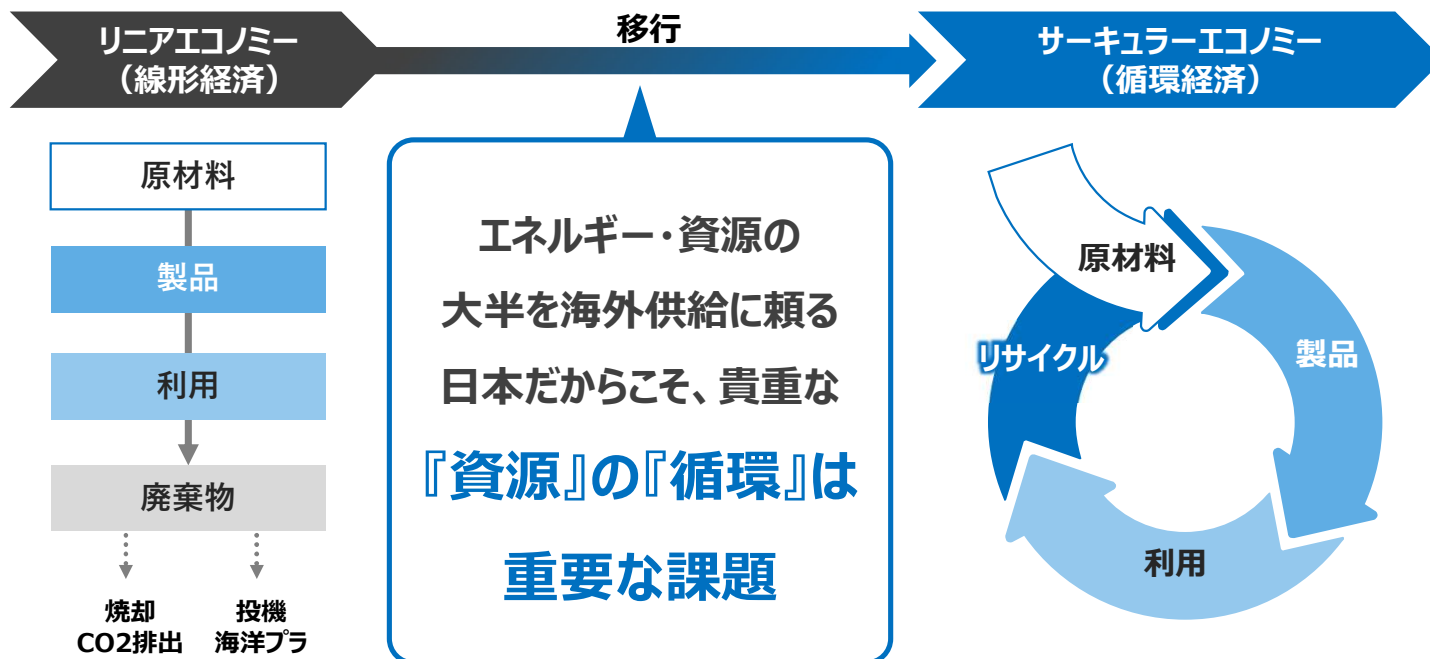
原油海外依存度
99.7%

中東依存度
95.3%

出典：資源エネルギー庁 『日本のエネルギー 2024年度版
「エネルギーの今を知る10の質問」』を基に作成

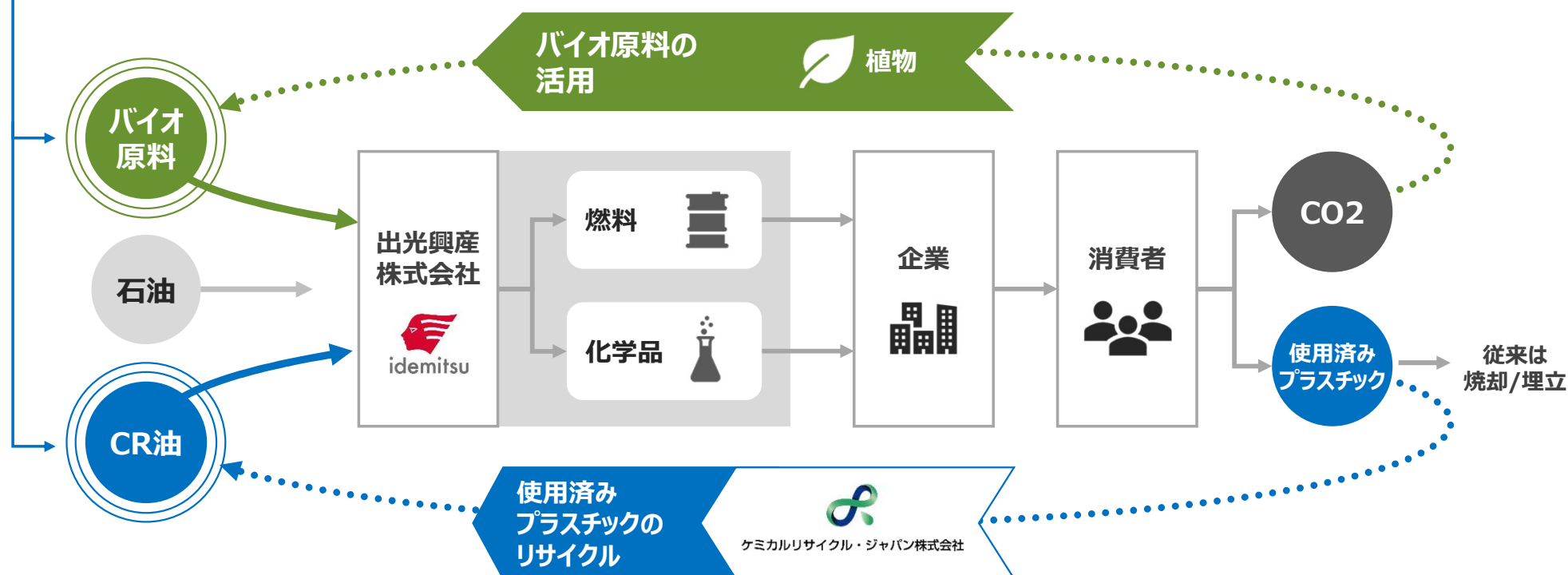
エネルギー・マテリアル安全保障の観点からも

リニアエコノミー から サーキュラーエコノミー への変革が求められている



出典：環境省 『令和3年版 環境・循環型社会・生物多様性白書』を基に作成

「持続可能な原料の使用拡大」により、
資源循環サプライチェーンの構築を目指します。



ケミカルリサイクル・ジャパン 株式会社（略記 CRJ）



Chemical Recycle Japan



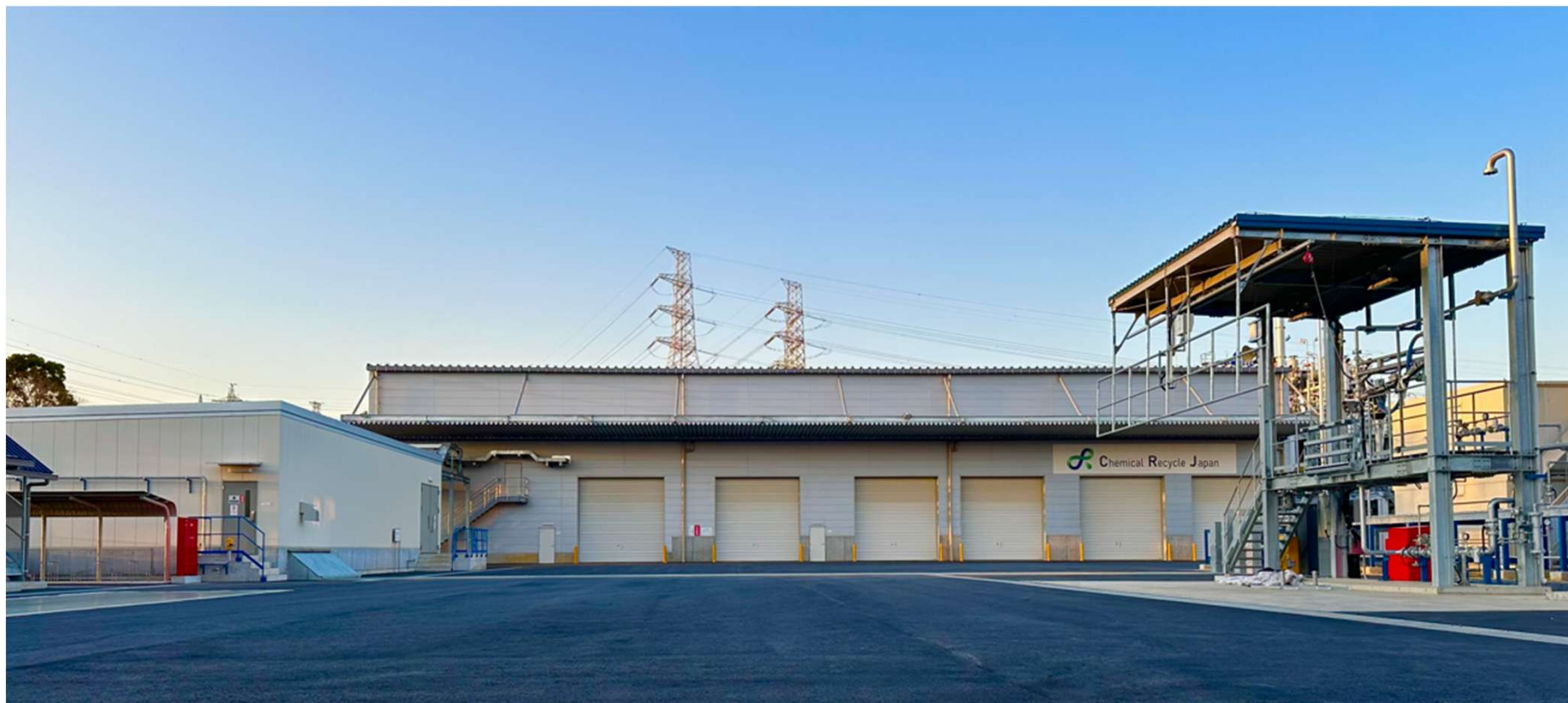
- 設立 2023年4月20日
- 本社住所 〒104-0041
東京都中央区新富一丁目18-8
RBM築地スクエア6F
- 代表取締役社長 岡村 仁彦
- 資本金 1億円
- 株主 出光興産株式会社
環境エネルギー株式会社
- 事業概要 **ケミカルリサイクル油（CR油）***の製造・販売
*使用済プラスチックを油化して生産した油

ケミカルリサイクル事業所（CRJ市原事業所）

2025年12月、2万t/年の使用済みプラスチックを処理可能な市原事業所が完工

2026年4月より商業運転を開始

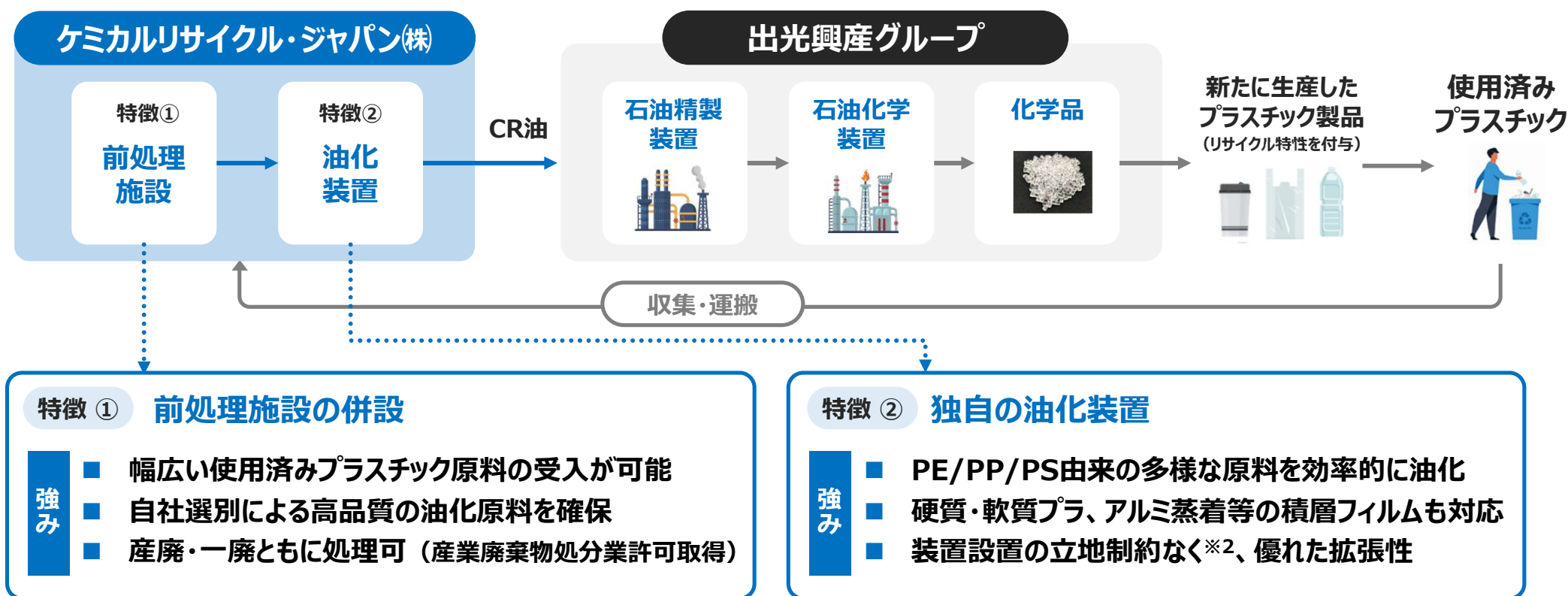
（ISCC Plus認証・産業廃棄物処分業許可 取得済み）



弊社CR事業所の特長は

①前処理施設の併設 ②独自の油化装置

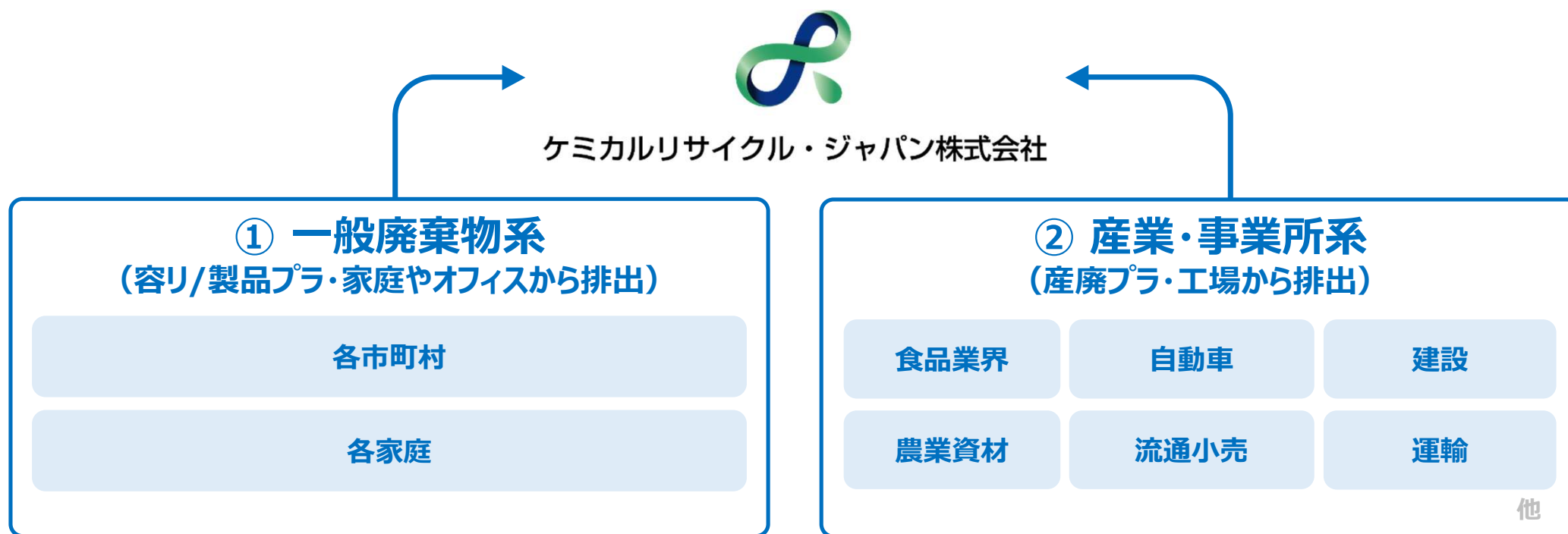
使用済みプラスチックから製造した“**CR油**”は、出光興産Grの“**石油精製装置等**”を経てCR製品として循環※1



※1 マスバランス方式を活用 ※2 水と電気があれば設置可

「一般廃棄物系」「産業廃棄物系」

双方の使用済みプラスチックを原料として使用予定
産業廃棄物処分量の許可取得済み



2号機の検討開始について

- 本年6月より、出光・CRJで油化CR装置2号機の基本設計を開始。**事業拡大の準備を進めている。**
- 一方で、**投資判断には、再生プラ使用義務化等による需要見通しがつくことが必須。**
➡**規制導入や支援制度の拡充など引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。**



NEWS RELEASE

2026 年 6 月 30 日
出光興産株式会社

油化ケミカルリサイクル設備 2 号機の基本設計を開始 使用済みプラスチックの再資源化を加速

出光興産株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：酒井則明、以下「当社」）は、子会社のケミカルリサイクル・ジャパン株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：岡村仁彦、以下「CRJ」）と連携し、使用済みプラスチックを原料とする油化ケミカルリサイクル※1設備の2号機建設に向けた基本設計を開始することを決定しました。立地候補は、当社の千葉事業所（所在地：千葉縣市原市）および愛知事業所（所在地：愛知県知多市）の隣接エリアです。当社は、循環型経済および資源安全保障の実現に向けて、油化ケミカルリサイクル事業の拡大を目指します。

※1 油化ケミカルリサイクル：使用済みプラスチックを油化して生産した CR 油を原料に「ケミカルリサイクル化学品」などを製造する再資源化の手法。

出典：出光興産プレスリリース

以上